

7 貝 類

7 貝類

貝類（陸産）

陸産の貝類では新たにヤサガタイトウムシオイ，ダイオウゴマガイ，イボイボナメクジ，スジキビ，ハクサンベッコウを選定した。ヤサガタイトウムシオイは西中国山地に生息している。今回の改定でイトウムシオイとされていたものを再検討した結果新たに本種と同定された。県内では非常に希産であり絶滅危惧Ⅰ類とした。ダイオウゴマガイはオオゴマガイを再検討した結果本種とした。県北部に散在している，イボイボナメクジ，スジキビ，ハクサンベッコウは今回1回の調査のみの記録であり情報不足とした。今回の見直しでサナギガイは再確認できないので環境省カテゴリーに準拠し絶滅危惧Ⅰ類にした。オカムラムシオイも生息箇所が限定されていて希少であることから絶滅危惧Ⅰ類とした。イトウムシオイは希産であり環境省カテゴリーに準拠し絶滅危惧Ⅰ類とした。パツラマイマイは地域個体群であり県内では非常に希産であるので絶滅危惧Ⅰ類とした。ツミヤママイマイは新しい生息地が見つかり分布範囲が明確になったことで絶滅危惧Ⅱ類とした。さらに，ナタネガイモドキ，クリイロキセルガイモドキは県内では希産であるので絶滅危惧Ⅱ類とした。

オオゴマガイ，シリオレトノサマギセルは今回再検討の結果誤同定であることで選外とした。

（鳥越兼治）

貝類（陸産）選定種

絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

- 1 サナギガイ
- 2 ハンジロギセル
- 3 タイシャクギセル
- 4 イトヒキオオベツマイマイ
- 5 オカムラムシオイ
- 6 イトウムシオイ
- 7 ヤサガタイトウムシオイ
- 8 パツラマイマイ

情報不足（DD）

- 1 ヒラドマルナタネ
- 2 ケハダビロウドマイマイ
- 3 イボイボナメクジ
- 4 スジキビ
- 5 ハクサンベッコウ

絶滅危惧Ⅱ類（VU）

- 1 ナタネキバサナギガイ
- 2 ヤマトキバサナギガイ
- 3 カワモトギセル
- 4 カタマメマイマイ
- 5 ダイオウゴマガイ
- 6 ナタネガイモドキ
- 7 クリイロキセルガイモドキ
- 8 ツミヤママイマイ

準絶滅危惧（NT）

- 1 クチマガリスナガイ
- 2 ホソヒメギセル
- 3 オオコウラナメクジ
- 4 ナガオカモノアラガイ
- 5 カワリダネビロウドマイマイ
- 6 ヒメコギセル

サナギガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-⑤

Pupilla cryptodon (Habe, 1882)

柄眼目 サナギガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	海岸や原野の草の根元や転石の下に生息する。本州、四国、九州、朝鮮半島などに分布する。殻は俵型で褐色。螺層は約 6.5 層。体層を含めて下部 3 層の殻径はほぼ等しい。殻口外唇は肥厚し白色化する。外唇内側に 2 個、内唇に 1 個、軸唇に 1 個の歯状突起を持つ。殻高 4 mm, 殻径 2 mm, 近似種はいない。
生息・生育状況	産地がきわめて局所的である。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生息地付近でのかく乱（開発による生息地の消滅, 土地の改変による環境の変化など）は、生息環境の消滅, 劣化につながることから、絶滅する可能性が高い。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区）

増田隆志・野上光章 1982. 広島県の軟体動物. 広島生物, p. 247-276. 第一法規, 東京.

(鳥越兼治)

ハンジロギセル 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①

Pinguiphaedusa hemileuca hemileuca (Pilsbry, 1909)

柄眼目 キセルガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	島根から広島・山口（寂地山）にかけて分布し、四国にはその亜種タキギセルが分布する。かつては広島市近郊のものは、サンヨウハンジロギセルと呼ばれ区別された。中型のキセルガイで、殻高は 20 mm 内外。殻は、「ハンジロ（半白）」の名にあるように、螺層が白と褐色の上下染め分け状となり、他種とは容易に区別できる。
生息・生育状況	県内西部に点々と分布するが、各産地とも生息が樹林内の限られた場所であり、巨樹などの樹幹やその付近に堆積する落葉下で目撃されることが多い。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	樹木に依存していることから、伐採などによる生息地の消失・縮小や生息環境の悪化によって影響を受ける。生息樹木および周辺樹木の伐採については、極力避けることが重要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区, 佐伯区）, 呉市（川尻）, 東広島市（福富）, 廿日市市（廿日市, 吉和）, 北広島町（芸北）

湊 宏 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus*, 別巻 2: 1-211.

平岡喜代典 1988. サンヨウハンジロギセル. 広島市の動植物（広島市教育委員会, 編）, p. 157. 広島市教育委員会, 広島.

(平岡喜代典)

タイシャクギセル 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①

Stereophaedusa costifera Kuroda & Taki, 1944

柄眼目 キセルガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	帝釈峡を模式産地とし、この付近の石灰岩地の固有種である。このほか、岡山県芳井町での生息が知られる。殻高は26~30mm。殻は紫褐色で、やや光沢があり、縦肋がよく発達する。類似した種類にナミギセルがいるが、殻表の縦肋によって区別できる。
生息・生育状況	生息は、石灰岩地のごく狭い地域に限られ、個体数が多くなる時もあるがきわめてまれである。開発や自然災害等の地形変化により環境が劣悪化し、近年、目撃頻度が減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採等による乾燥化は、一時的であっても壊滅的な打撃となることから、生息地周辺での伐採を極力避ける必要がある。また、日本三美ギセルのひとつに数えられ、捕獲・採取圧にさらされていることから、これを防ぐ対策が求められる。
特記事項	—
産地情報	庄原市(東城)

湊 宏 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus*, 別巻 2: 1-211.

鳥越兼治 1987. 帝釈峡およびその周辺の陸産貝類. 広島大学学校教育学部 第II部. 10: 125-133.

(平岡喜代典)

イトヒキオオベソマイマイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Aegista tadai Minato, 1983

柄眼目 オナジマイマイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: NT

概要	国内では、広島県特産種である。旧安芸郡蒲刈町の石灰岩地で発見され、同地が模式産地である。分布は今のところ呉市、蒲刈町、下蒲刈町に限られる。体層殻表に糸状襞が一定間隔でみられ、他のオオベソマイマイ属と著しく相違する。縫合は明らかで、臍孔は大きく開く。殻表には糸状襞が成長脈に沿ってある。他のオオベソマイマイ属は、殻表が平滑もしくは微細な剛毛を有する。
生息・生育状況	呉市、蒲刈、下蒲刈に知られているが、産地は限られ個体数も少ない。石灰岩地帯に生息し、転石や落葉の下などで見つかる。下蒲刈の産地は橋脚の設置のため改変され、今回の調査では確認されなかった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発等による環境変化。土地の改変による環境の変化に影響を受けるので、石灰岩地帯の改変を極力避ける対策が求められる。
特記事項	本県を模式産地とし、本県の蒲刈島とその周縁石灰岩地域の特産希少種。
産地情報	呉市(下蒲刈, 蒲刈)

湊 宏 1983. 広島県産の新種, イトヒキオオベソマイマイ. *Venus*, 41(4): 247-250.

鳥越兼治・西本知己 1996. 上・下蒲刈島の陸産貝類相. 広島大学学校教育学部紀要II, 18: 79-82.

(鳥越兼治)

オカムラムシオイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①

Cipangocharax okamurai (Azuma, 1980)

中腹足目 ムシオイガイ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	採集記録は、模式産地の島根県猿政山、広島県吾妻山および六ノ原の3か所であり、現在のところ中国山地脊梁部に分布が限定されている。ムシオイガイとしてはやや大型で、殻径5mm程に達する。殻は堅固、扁圧で、うすい桃色をなす。殻口はほとんど円形。周縁から螺層隆起が顕著にみられる。底部は乳白色の滑層が著しく発達して臍孔部をほとんど閉じる。蓋は石灰質で厚く円形。ムシオイガイという名の由来は、殻口近くの体層背部縫合部にある管状のものが「虫」を背負っているように見えることから、その名がある。県内には、県内には、ミヤコムシオイ、ピルスプリムシオイ、イトウムシオイ、ヤサガタイトウムシオイなどがいるが、形態や大きさで容易に区別できる。
生息・生育状況	湿ったミズナラなどの落葉下や朽ち木の下などに生息するが、生息場所では複数がまとまって見つかることもある。採集記録に限られる珍しい種類であり、捕獲・採取圧にさらされている。六ノ原では、いつとき確認されない状態にあった。現在は、わずかな生息が確認されているが、捕獲・採取圧にさらされている可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採などによる生息環境の劣化による影響が考えられ、生息地付近での伐採については注意が必要である。また、捕獲・採取圧にさらされている場所では、立ち入りを制限する対策も必要となろう。
特記事項	—
産地情報	庄原市(西城, 比和)

東 正雄 1980. 島根県猿政山アツブタムシオイガイ属の1新種. *Venus*, 39(3): 139-141.

小松茂美・久家光雄 1991. オカムラムシオイ *Cipangocharax okamurai* (Azuma, 1980) [GASTROPODA: Alyacidae] の新産地について. *ちりぼたん*, 14: 70-78.

(平岡喜代典)

イトウムシオイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①

Chamalycaeus itonis itonis Kuroda, 1943

中腹足目 ムシオイガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	伊藤恒堂氏によって岡山県新見市上市で発見された。岡山県西部から広島県東部にかけてと、愛媛県に分布する。殻は奇形的で、虫様の呼吸管付近でくびれたあと殻口にかけて膨らむ。くびれは溝状である。殻径4.5~5.0mm。近似種にヤサガタイトウムシオイとクビレイトウムシオイがあるが、大型で体層の頸部のくびれが溝状であることから区別できる。
生息・生育状況	帝釈峡およびその周辺と三原市久井町に分布が限定されている。産地は限られ、個体数も少ない。森林内の落葉下層や礫の間などに生息する。個体数は非常に少なく、まとまって見つかることはない。帝釈峡は石灰岩地域であるが、三原市は石灰岩地域ではない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採による生息地の消滅。土地の改変による環境の変化。これらを行わなければならないときは十分な配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	三原市(久井), 庄原市(東城)

稲葉明彦 1988. 帝釈峡とその周辺の貝類. 帝釈峡の自然(「帝釈峡の自然」刊行会, 編), p. 473-486. 「帝釈峡の自然」刊行会, 東城.

鳥越兼治 1987. 帝釈峡およびその周辺の陸産貝類. 広島大学学校教育学部紀要II, 10: 125-134.

(鳥越兼治)

ヤサガタイトウムシオイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①

Chamalycaeus itonis shiotai Minato & Yano, 1988

中腹足目 ムシオイガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	体層の中央に虫様管を有するため本亜種の仲間はムシオイガイ類と呼ばれ、虫様管基部に収縮部がある。本亜種は、殻高 1.5 mm、殻幅 4.0 mm、巻き数 4 層、左右に長い楕円形の巻き貝であり、収縮部から殻口にかけて殻は大きく膨れる。殻口はやや反転しながら肥厚して下に向く。体層や螺層に螺状彫刻はなく、体層の後半部は成長脈の間隔が広いが、それ以外の部分はその間隔が非常に密である。本亜種は広島県西部に生息しており、広島県東部に生息する基亜種のイトウムシオイとは、体層の収縮部がより後方に寄るため収縮部から殻口までの長さが長いことと、収縮部から殻口にかけて螺管の大きさがそれほど太くならないことによって区別される。
生息・生育状況	広島県西部の旧吉和村・旧戸河内町から島根県西部の益田市匹見町・津和野町から山口県北部の萩市まで分布している。この生息範囲において広島県の生息地は分布の東限にあたり、生息地点が非常に限られているうえ、各生息地点における生息個体数が非常に少ない。山口県では非石灰岩地のみならず石灰岩地にも生息しているが、広島県の生息地は非石灰岩地であり、礫地に落ち葉が堆積したような湿気が多い環境を好む。
存在を脅かす要因・保全の留意点	落葉の積もった湿気が多い礫地という特殊な環境に生息しているため、森林伐採や林道・ダムの建設等によって、生息地が改変されると、絶滅の危険性が大きい。自然環境の改変が必要などときには、十分な配慮が必要である。
特記事項	本種は、山口県萩市笠山で 1972 年に見つかり、1982 年に旧吉和村冠山北麓において、塩田浩之氏によって見つげられたことを契機に、塩田氏に献名して 1988 年に新亜種記載された。その和名は、イトウムシオイより殻の特徴が弱いことより、ヤサガタイトウムシオイと命名された。その後、広島県の個体は殻口の形態の特徴からイトウムシオイの一型ではないかと再同定されたが、近年の遺伝子解析の結果（未発表）や殻の形態の再検討によって、再びヤサガタイトウムシオイに同定された。
産地情報	廿日市市（吉和）、安芸太田町（戸河内）

湊 宏・矢野重文 1988. 中国地方産イトウムシオイガイ亜属の新亜種. *Venus*, 47(1): 33-36.

矢野重文 2019. 広島県西部の中津谷川流域で採集した陸産貝類. *まいご*, 26: 13-17.

(矢野重文)

パツラマイマイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-⑤

Discus pauper (Gould, 1859)

柄眼目 パツラマイマイ科

環境省: LP

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	北海道、本州、伊豆諸島に分布する。分布の主体は日本北部で、北部に行くほど低地に分布し、南部では山岳地帯に分布する。広島県の産地は、分布の西限となっている。近県では、鳥取県擬宝珠山に分布している。殻は円盤型。螺層には成長脈を密に現わし、縫合は深い。臍孔は広く深い。殻色は赤褐色で、軟体部は黒である。殻高 3.3 mm、殻径 6.5 mm。パツラマイマイ科は、日本では 1 属 1 種である。
生息・生育状況	県内では安芸太田町聖山から知られるのみで分布が限定されている。個体数もかなり少ない。本種の分布上の西限である。個体数はきわめて少ない。詳細は不明なことが多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為や森林伐採による生息・生育地の消失・縮小。土地の改変による環境の変化。これらを行わなければならない場合は、十分な配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	安芸太田町（戸河内）

鳥越兼治・山根 取 1998. 西中国山地の陸産貝類相. 広島大学学校教育学部紀要 II, 20: 61-68.

(鳥越兼治)

ナタネキバサナギガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Vertigo eogea eogea Pilsbry, 1919
柄眼目 キバサナギガイ科

環境省: VU
広島県 2011: VU
広島県 2003: VU

概要	殻高 2 mm 前後, 殻径 1.4 mm 前後の微小貝で卵形。螺層は約 6 層で各層はよく膨れる。褐色で光沢があり, 殻頂部は鈍くて丸い。右巻きで, 殻口内に 6 本の歯状突起がある。分布域は北海道から本州, 四国にかけて 22 道府県。湿地という特殊な環境に生息。広島県では帝釈と安芸で記録されてきたが, 三原市久井町で新たな生息地が複数確認された。
生息・生育状況	湿地という特殊な環境に生息する種であるため, 日本の道府県においても生息地は局限されている。湿地のなかでも殆ど止水状の場所で, 草の根際や堆積した植物遺骸上などの非常に湿った環境に生息する。自然湿地での生息数はきわめて少ないが, 人工的な湿地環境では多産している。ミズコハクガイなどが同一環境で生息しているのが確認されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	湿地や休耕田などの用地転用にとまなう埋め立てや, 濁水による陸地化, また, 豪雨による土砂流入など, 人為的・自然的両面からの影響で生息環境は脅かされている。調査が行われないまま生息地が失われる可能性は高い。
特記事項	三原市久井町で新たな生息地が複数確認され, その内の 1 か所は自然な状態で保たれてきた湿地であり, 現在自然環境下で本種の生息が確認されているのは, この湿地のみである。湿地環境の保全・保護が課題である。
産地情報	三原市, 神石高原町

湊 宏 2005. 日本産陸棲貝類の分布資料 5, キバサナギガイ科: ナタネキバサナギガイ. かいなかま, 39(2): 49-57.
丸山優子 2020. 広島県三原市において近年確認された陸淡水棲貝類 3 種について. かいなかま, 54: 25-30.

(丸山優子)

ヤマトキバサナギガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Vertigo japonica Pilsbry & Hirase, 1904
柄眼目 キバサナギガイ科

環境省: VU
広島県 2011: VU
広島県 2003: VU

概要	模式産地は北海道渡島七飯町軍川 (Oshima Ikusagawa), 北海道, 本州, 四国に分布する。殻は微小。殻高 1.7 mm, 殻径 1 mm。殻は細長く両端は鈍く, 淡褐色。体層は下方へやや細くなる。殻口は不規則な卵形で 4 歯がある。強い軸唇板, 長い内唇板があり, 外唇には 2 個の腔襞がある。口縁はうすく, 狭く広がり, 外唇は前方と内側にわずかに突き出る。ナタネキバサナギガイとキバサナギガイのちょうど中間の大きさであり, 螺層が 5 である点, 殻口が卵形で明瞭な 4 歯がある点で, それら 2 種と区別される。
生息・生育状況	記録が限られており詳細は不明である。生息場所がきわめて狭い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採による生息地の消滅。土地の改変による環境の変化。これらを配慮しなければならない。
特記事項	—
産地情報	庄原市 (東城), 神石高原町 (神石)

稲葉明彦 1988. 帝釈峡とその周辺の貝類. 帝釈峡の自然 (「帝釈峡の自然」刊行会, 編), p. 473-486. 「帝釈峡の自然」刊行会, 東城.
増田隆志・野上光章 1982. 広島県の軟体動物. 広島県の生物, p. 247-276. 第一法規, 東京.

(鳥越兼治)

カワモトギセル 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①

Tyrannophaedusa kawamotoi Kuroda & Taki, 1944

柄眼目 キセルガイ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	山口県を中心に、大分県北東部、山口県、島根県西部の範囲に分布する。採集者の河本卓介氏に献名された名で、山口県岩国市城山を模式産地とする。広島県の産地は東限に近い。紡錘形。殻口はわずかに突き出し、背後に粗い肋状と1個の低い隆起が存在する。軸側縁に6~7個の襞が現れることもある。月状襞は逆J形。殻高20mm程度。近似種にシリオレギセルがあるが、殻口が突き出すことや背後の粗い肋状などで区別される。
生息・生育状況	既知の産地は三段峡のみで、個体数も少ない。溪流沿いの落葉樹林内の朽ち木の下などに生息する。産地記録、個体数ともに少なく、現在の生息状況は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採などによる生息・生育地の消失・縮小。土地の改変による環境の変化。とくに生息地付近における伐採は生息環境が悪化することから避ける必要がある。
特記事項	—
産地情報	安芸太田町(戸河内)

鳥越兼治・山根 収 1998. 西中国山地の陸産貝類相. 広島大学学校教育学部紀要Ⅱ, 20: 61-68.

増田隆志・野上光章 1982. 広島県の軟体動物. 広島の生物, p. 247-276. 第一法規, 東京.

(鳥越兼治)

カタマメマイマイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①

Lepidopisum conospira (Pfeiffer, 1851)

柄眼目 オナジマイマイ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	模式産地は東京上野。本州(関東地方以南)、四国に分布するが、産地はきわめて局所的である。殻高5~6mm, 殻径6~7mm。やや球形で螺塔は円錐形。縫合は深く、各層はよくふくれる。体層は大きく、周縁は円い。殻表は褐色の小さい鱗片状の殻皮でおおわれる。殻口の外唇や底唇は円く湾曲し、やや厚い。軸唇は白く厚く肥厚する。臍孔は小さく深い。近縁種はとくにいない。
生息・生育状況	不明な点が多い。個体数が非常に少ない。近年の記録はきわめて少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採による生息地の消滅。土地の改変による環境の変化。これらを配慮しながら保全する。
特記事項	—
産地情報	庄原市(東城)

稲葉明彦 1988. 帝釈峡とその周辺の貝類. 帝釈峡の自然(「帝釈峡の自然」刊行会, 編), p. 473-486. 「帝釈峡の自然」刊行会, 東城.

増田隆志・野上光章 1982. 広島県の軟体動物. 広島の生物, p. 247-276. 第一法規, 東京.

(鳥越兼治)

ダイオウゴマガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Diplommatina nakashimai Minato, 2015
中腹足目 ゴマガイ科

環境省: なし
広島県 2011: NT
広島県 2003: NT

概要	模式産地は鳥取県日野町舟地。分布は、鳥取県、島根県の山陰を中心に、広島県・岡山県の北部山地にまで及ぶ。県内では、西中国山地で確認されている。ゴマガイ類中最大(殻高約 4.5~5.1 mm) で、混棲するオオウエゴマガイ(殻高が約 3.7~4.1 mm) よりも大きい。最大の特徴として腔襞を欠き、山陰を中心に分布するオオゴマガイとも区別できる。県内産の腔襞を欠く大型個体については、かつてオオゴマガイと同定したが、その後、新種のダイオウゴマガイであることが明らかとなった。
生息・生育状況	ブナ等の森林に堆積する落葉・朽ち木の下など、湿り気のある環境にまとまって生息する。西中国山地など、分布が限定的で、伐採などによる環境の劣悪化によって県内での生息状況に大きく影響する。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生息地およびその付近での伐採は、生息環境の悪化につながることから、極力避ける必要がある。
特記事項	臥龍山で採集されたゴマガイ類は、殻高 4.7 mm と大型で、広い腔滑層に被われ、腔襞を欠いていた。当時、オオゴマガイと同定されたが、その後、湊(2015)によってダイオウゴマガイとして新種記載された。
産地情報	廿日市市(吉和)、北広島町(芸北)

湊 宏 2015. 中国地方産ゴマガイ科貝類の新種・ダイオウゴマガイ. *Venus*, 73(1-2): 75-78.

矢野重文 2019. 広島県西部の中津谷川流域で採集した陸産貝類. *まいご*, 26: 13-17.

(平岡喜代典)

ナタネガイモドキ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Pyramidula conica Pilsbry & Hirase, 1902
柄眼目 ナタネガイモドキ科

環境省: NT
広島県 2011: NT
広島県 2003: NT

概要	石灰岩地帯の特産種で、群馬県、滋賀県伊吹山、広島県帝釈峡、山口県秋吉台、徳島県水井や剣山の山頂近くの石灰岩の露頭などに生息する。殻は微小、殻高 2~3 mm, 黒褐色、螺塔は低く、成長脈は明らか、臍孔は広い。近似種はいない。
生息・生育状況	石灰岩地帯の石灰岩の露頭に見られることがあるが、詳細な産地記録個体数は不明なことが多い。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	石灰岩地帯の現状維持、開発行為や森林伐採による生息・生育地の消滅・縮小、土地の改変による環境の変化などを配慮する必要がある。
特記事項	—
産地情報	庄原市(東城)、神石高原町(神石)

稲葉明彦 1988. 帝釈峡とその周辺の貝類. 帝釈峡の自然(「帝釈峡の自然」刊行会, 編), p. 473-486. 「帝釈峡の自然」刊行会, 東城.

増田隆志・野上光章 1982. 広島県の軟体動物. 広島県の生物, p. 247-276. 第一法規, 東京.

(鳥越兼治)

クリイロキセルガイモドキ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①

Mirus andersonianus (Moellendorff, 1885)

柄眼目 キセルガイモドキ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	日本海側を中心に北海道の知床半島から本州の東北、北陸を経て山陰にまで及ぶ。近県では、島根県、鳥取県で生息が確認されているが、どの生息地でも寡産である。中国地方のものは大型で、かつてはエチゴキセルガイモドキと呼ばれ区別された。広島県の産地は分布の南西限となっている。殻は右巻で体層から殻頂に向けて細まる。殻色は赤褐色、縫合部は淡黄色となる。殻口の内側は紫色で、軟体は暗黒色である。殻高 27~28 mm、殻径 10 mm 前後。キセルガイモドキに似るが、殻の形状や色合いなどによって容易に区別できる。
生息・生育状況	樹上性で自然度豊かな森林に生息する。県内の産地は、今のところ三段峡のみで、分布はかなり限られるようである。個体数は、かなり少なく、三段峡での再調査でも確認できないことから、減少していると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ブナ等の樹幹に生息し、伐採などによる生息環境の消滅や悪化は生息や個体群の存続に大きな影響を与える。
特記事項	—
産地情報	廿日市市 (吉和), 安芸太田町 (戸河内), 北広島町 (芸北)

湊 宏・石坂 元 1989. 知床半島で見つかったクリイロキセルガイモドキの記録とその分布. ちりぼたん, 20: 15-18.

平岡喜代典 1993. クリイロキセルガイモドキの新産地. ちりぼたん, 24: 57

(平岡喜代典)

ツミヤママイマイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Aegista kobensis tsumiyamai Kuroda & Habe, 1951

柄眼目 オナジマイマイ科

環境省: DD

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	殻高 4.2~5.9 mm、殻径 7.7~12.0 mm、巻き数は 6 層、殻は茶褐色で光沢がある。コウベマイマイの亜種とされているが、殻口は反転するが肥厚しないことと、臍孔が狭いこと、殻表の光沢が強いことより、コウベマイマイとは区別される。殻の形態や殻の特徴はコウベマイマイよりサチマイマイにたいへんよく似ており、コウベマイマイではなくサチマイマイの亜種ではないかと思われる。サチマイマイの体層周縁は円くて周縁上部がなで肩になるのに対して、本亜種はやや怒り肩になることにより区別される。サチマイマイは岡山県西部の石灰岩地に分布する岡山県固有種であるのに対して、本亜種は広島県東部の石灰岩地に分布する広島県固有種である。
生息・生育状況	広島県東部の石灰岩地にのみ生息しており、各生息地における生息数が非常に少ないため、絶滅が危惧されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	石灰岩地という特殊な環境に生息しているため、森林伐採や林道・ダムの建設等によって、生息地が改変されると、絶滅の危険性が大きい。自然環境の改変が必要などときには、十分な配慮が必要である。
特記事項	本種は、1936 年に瀧 巖氏によって帝釈峡において 2 個体採集され、1951 年に黒田徳米・波部忠重氏により上帝釈峡白雲洞管理者の積山類助氏に献名してツミヤママイマイと新称され、コウベマイマイの亜種として新亜種記載された。その後、帝釈峡周辺の何か所かで採集されて比婆科学に報告された。しかし、殻の形態がコウベマイマイよりサチマイマイに似ていることより、コウベマイマイの亜種ではなく、サチマイマイに近い種であるという見方で再検討することが必要である。
産地情報	三次市 (甲奴), 庄原市 (東城), 神石高原町 (油木, 神石)

黒田徳米・波部忠重 1950. 中国地方産オオベソマイマイ類新種. 夢蛤, 4-47: 19-21.

黒田徳米・波部忠重 1951. 中国地方産オホベソマイマイ属の 2 新種並に 2 新亜種. *Venus*, 16(5-8): 78-82.

(矢野重文)

クチマガリスナガイ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Bensonella plicidens (Benson, 1849)

柄眼目 スナガイ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	おもに石灰岩地帯に分布する。本州，四国，九州に分布する。殻は円錐形で微小，殻高 2.5 mm，殻径 2 mm。殻口は円形で歯があり，前方へ曲がる。角板の下は中断して小片となる。ラッパガイに形態は似るが分布域がまったく異なる。
生息・生育状況	帝釈峡およびその周辺の石灰岩地帯の転石地に生息する。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	石灰岩地帯の転石は除去する必要がある場合にはとくに注意が必要である。その他，伐採による生息地の環境変化。土地の改変による環境の変化などに配慮する必要がある。
特記事項	—
産地情報	福山市，庄原市（東城），神石高原町（油木）

稲葉明彦 1988. 帝釈峡とその周辺の貝類. 帝釈峡の自然（「帝釈峡の自然」刊行会，編），p. 473-486. 「帝釈峡の自然」刊行会，東城。
前田和俊・松隈明彦・上島 励 1990. 国立科学博物館収蔵稲葉コレクション陸産貝類目録. 31pp.

（鳥越兼治）

ホソヒメギセル 準絶滅危惧(NT) NT-b

Tyrannophaedusa gracilispira (Moellendorff, 1882)

柄眼目 キセルガイ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	模式産地は神戸。大木の樹洞，朽木の中などに生息。岐阜県西部・三重県以西の近畿から中国，四国，九州に分布する。県内でも比較的広く点々と分布している。キセルガイとしては小型で，殻高約 9 mm，殻径約 2 mm，9 層。紡錘形で淡褐色から黄白色。主襞は長く，前面の前部中から起こり，殻口からその末端がみられる。腔襞は 2 個その中央のは小さい。下軸板は唇縁に現れない。比較的小型のものでスグヒダギセルがいるが，本種とは大きさや月状襞を欠くことで区別できる。
生息・生育状況	県内の比較的多くの地点で確認されているが，生息場所は広葉樹林の樹洞などきわめて限られている。樹洞内で，数十個体がまとまって見つかることがあるが，生息場所となる大木の樹洞は非常に少なく，近年，発見が難しくなっている。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生息場所は，陰湿な環境にある大木の樹洞などであり，生息地付近での伐採は，生息環境の質的劣化につながることから，極力避ける必要がある。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区，佐伯区），三原市，福山市，庄原市（東城，比和），廿日市市（廿日市，吉和），北広島町（芸北），神石高原町

湊 宏 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus*, 別巻 2: 1-211.

金井照夫 1976. 陸産貝類採集目録 広島県比婆郡，神石方面. ヒドラ会会報, 9: 6.

（平岡喜代典）

オオコウラナメクジ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Nipponarion carinatus Yamaguchi & Habe, 1955

柄眼目 オオコウラナメクジ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	模式産地は鳥取市久松山。東北地方以南の本州、四国、九州に分布。軟体は褐色で淡い褐斑がある。体長 35 mm, 体幅 10 mm, 高さ 12 mm。背上の楯板は大きく縦 12 mm, 横 8 mm でその後方に著しい稜角がある。体の前方・頭部・触角は漆黒色で光沢がある。ヤマコウラナメクジは体がやや青みがかった黒色なので容易に区別できる。また稜角もない。
生息・生育状況	落葉広葉樹林帯の落葉下などで見つかるが、県内の産地記録、個体数ともに少なく、生息環境の劣悪化による減少が懸念される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採などによる生息環境の消失や悪化は、本種の生息や個体群の存続に影響を与えることから、生息地およびその付近での伐採は極力避ける必要がある。
特記事項	—
産地情報	庄原市(東城), 廿日市市(吉和), 安芸太田町(戸河内), 北広島町(芸北)

湊 宏 1988. 日本陸産貝類目録. 294pp. 日本陸産貝類目録刊行会, 和歌山.

山口 昇・波部忠重 1955. 日本産ナメクジ類の研究(1). *Venus*, 18(4): 234-240.

(平岡喜代典)

ナガオカモノアラガイ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

柄眼目 オカモノアラガイ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	本州、九州に分布。水田の用水路の水際に生息する。増水後は水際より上部に付着していることが多い。殻はモノアラガイに似ているが、螺塔が低いので区別される。また、触角の先端に目がある柄眼亜目である。成貝の殻高は 10~12 mm くらいである。オカモノアラガイは中部、関東以北に生息する。
生息・生育状況	開発行為や放棄水田の増加などにより生息環境の消失や劣化を生じ、個体数は減少しているようである。旧総領町・旧吉舎町・旧三良坂町の個体は灰塚ダム建設のための水没地区にあたり、湛水後は絶滅した。また、現在も民家の疎開により、農業がされなくなり、用水路が放置され、通水されないの、個体数は激減している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	放棄水田により、用水路を使わなくなったために、通水をしなくなったことによる生育環境の著しい変化。これらを防ぐことは難しいが、できるだけ影響を少なくすることが求められる。
特記事項	—
産地情報	府中市, 三次市(吉舎, 三良坂), 庄原市(総領, 東城), 大竹市

増田隆志・野上光章 1988. 広島県の軟体動物. 広島県の生物, p. 247-276. 第一法規, 東京.

東 正雄 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. XV+64 Pls.+333 pp. 保育社, 大阪.

(鳥越兼治)

カワリダネビロウドマイマイ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Nipponochloritis silvaticus Minato, 1989

柄眼目 ナンバンマイマイ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	模式産地は山口県岩国市錦町寂地山。中・四国に分布し、中国地方では山口県、広島県、島根県での分布が知られる。この属としては中型からやや大きい部類にはいる。殻は偏圧で薄くて脆い。淡褐色から暗褐色を呈する。体層は非常に大きく殻高の6/7に達し、周縁は円い。縫合は深く顕著。殻皮は光沢がなく、極繊細な短毛が一定間隔で殻表の全面に密生する。臍孔は小さく軸唇の反面によってほとんどが被われる。シコクビロウドマイマイとサイコクビロウドマイマイに外見上似るが、両種とは生殖器系に陰茎付属肢を欠くことで区別できる。
生息・生育状況	湿り気の多い谷部の倒木、朽木、石礫下など、比較的冷涼で、湿潤な場所に生息することが多い。ただし、個体数はどこも少ない。県内での記録は、西中国山地が中心であるが、広島市、三原市（丸山優子氏採集）でも発見されている。過去の採集地点では、ほとんど確認されず、個体数の減少や生息環境の劣悪化が考えられた。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採等による生息地の人為的攪乱は、生息地の縮小だけでなく、生息環境の劣化を招くことから、必要最低限にとどめることが重要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区）、三原市（三原、久井）、安芸太田町（戸河内）、北広島町（芸北）

湊 宏 1989. 山口県で採集されたカワリダネビロウドマイマイ(新種). *Venus*, 48: 259-262.

多田 昭 2018. カワリダネビロウドマイマイ徳島県に産す. *まいご*, 23: 3-7.

(平岡喜代典)

ヒメコギセル 準絶滅危惧(NT) NT-a

Euphaedusa comes (Pilsbry, 1900)

柄眼目 キセルガイ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	分布域は東北から中国地方となる。朽木や落ち葉の下に棲み、比較的群生傾向にある。殻は小形で細長い紡錘形黄褐色。殻高 14 mm, 殻径 3 mm, 10 層。殻表には極微細な成長脈をめぐらす。殻口は体層から著しく突き出し、やや円みを帯びた洋梨形。唇縁は白く厚くなって広がり、反曲する。主襞の殻外面上に溝がある。上板は小さく唇縁に達し、殻の内部の螺旋板と連結する。下板は引込み、見えにくい。下軸板は深く潜在し唇縁に現れない。主襞は側位で長く背部に及ぶ。上・下腔襞は短い。ナミコギセルとは、殻表の成長脈が明瞭で光沢が少ないこと、殻口が突き出すこと、下板が上板に接近しつつ旋回することなどから容易に区別できる。
生息・生育状況	朽木に見られることが多いが、詳細は不明である。少数の地点で観察されるだけである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採による生息地の消滅。土地の改変による環境の変化。これらを配慮することが求められる。
特記事項	模式産地は播磨香島（兵庫県揖保郡新宮町篠首から香山）。分布域は近畿地方北部から中国地方。その場合、模式産地は日本（場所が特定できない）であり、オオタキコギセルのシノニムとなる見解が主流である。
産地情報	庄原市（西城、東城、比和）

稲葉明彦 1988. 帝釈峡とその周辺の貝類. 帝釈峡の自然（「帝釈峡の自然」刊行会、編）, p. 473-486. 「帝釈峡の自然」刊行会、東城.

増田隆志・野上光章 1982. 広島県の軟体動物. 広島県の生物, p. 247-276. 第一法規、東京.

(鳥越兼治)

ヒラドマルナタネ 情報不足(DD) DD-a

Pupisoma harpula Reinhardt, 1886

柄眼目 マキノメガイ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	模式産地は東京（東京大学構内, 旧加賀屋敷）。柑橘類の樹幹などに生息する。本州（関東以南）、四国、九州に分布。殻は薄く脆く、まるみを帯びた円錐形で螺旋形。殻高 2 mm, 殻径 1.7 mm。殻表に細脈がある。殻口は著しく斜位で卵形。口縁は薄く脆く、内唇は広がり反転する。臍孔はある。マルナタネガイより臍孔が広く、より小型である。
生息・生育状況	生息・生育についてほとんど不明である。生息密度がきわめて少ないと考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	伐採による生息地の消滅。土地の改変による環境の変化。これらを行う時は配慮する必要がある。
特記事項	—
産地情報	庄原市（東城）

稲葉明彦 1988. 帝釈峡とその周辺の貝類. 帝釈峡の自然（「帝釈峡の自然」刊行会, 編）, p. 473-486. 「帝釈峡の自然」刊行会, 東城.
増田隆志・野上光章 1982. 広島県の軟体動物. 広島島の生物, p. 247-276. 第一法規, 東京.

(鳥越兼治)

ケハダビロウドマイマイ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Nipponochloritis fragilis (Gude, 1900)

柄眼目 ナンバンマイマイ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	模式産地は京都で本州（北陸, 近畿, 中国）に分布する。湿気を帯びた場所（小川の近くの朽木や小川に架かっている橋の裏側など）によく見られる。殻の表面には毛状の付属物があり特異である。殻は薄く脆く殻表には毛状の付属物がある。殻高 16 mm, 殻径 20.8 mm。螺塔は低い。黄褐色。縫合はやや深く各層はよくふくれる。体層は急にふくれる。殻皮は短い毛状の密な列生で包まれ、粗いビロウド状となる。殻口は少し下降する。唇縁は薄い。臍孔は深く狭い。サイコクビロウドマイマイより毛状の殻皮が粗い点で区別できる。
生息・生育状況	産地記録, 個体数ともに少なく、現在の生息状況は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発行為や森林伐採などによる生息生育地の消失や縮小。これらを行う時は配慮する必要がある。
特記事項	—
産地情報	県北としか記載がない

増田隆志 1981. 広島県陸産貝類目録を編むについて. おすとれあ, 13 (2) : 10-17.

東 正雄 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. XV+64 Pls.+333 pp. 保育社, 大阪.

(鳥越兼治)

イボイボナメクジ 情報不足(DD) DD-a

Granulilimax fuscicornis Minato, 1989

収眼目 ホソアシヒダナメクジ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	陸産貝類を捕食する肉食種で、体長約 30 mm。体表全体が微細な顆粒状のイボ状突起に覆われる。殻はなく、黄褐色の体表の背面は濃褐色の帯で楕円状に縁どられる。大・小触覚は黒褐色で太く短い。分布域は本州（山梨県以西）、四国、九州、沖縄。生息地は植物遺骸が堆積した広葉樹林縁礫地。イボイボナメクジと言われる種群の中には別種も含まれている可能性があるが、個体数の少なさから研究は遅れている。
生息・生育状況	全国約 20 都府県で生息が確認されているが、いずれの生息地においても確認個体数は多くても数個体に留まる希少種である。広島県では三原市と神石高原町で生息が確認されたが、それぞれ 1 個体ずつであり、その後の調査によっても追加個体は得られていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息地は植物遺骸が堆積した広葉樹林縁礫地で、森林開発などが進むと、生息密度が低い事から影響を受けやすい。
特記事項	—
産地情報	三原市, 神石高原町

丸山優子 2018. 陸産貝類. 天然記念物 久井・矢野岩海(久井岩海)保存活用計画 調査編 (三原市教育委員会, 編), p. 214-230. 三原市教育委員会, 三原.

湊 宏 1989. 日本産ナメクジ科の新種新属, イボイボナメクジの記載. *Venus*, 48 (4) : 255-258.

(丸山優子)

スジキビ 情報不足(DD) DD-b

Parakaliella ruida (Pilsbry, 1901)

柄眼目 シタラ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 2.6 mm, 殻径 3.5 mm, 巻き数 4.5 層, そろばんの玉形の巻き貝。殻は茶褐色で、体層周辺はキール状に角張り、殻表全体に等間隔で規則的な成長脈を有する。その独特の形態により、他種との区別は容易である。本種は、北は青森県から西は山口県まで本州に広く分布しているが、いずれの生息地においても多産せず、全国の 17 都府県において絶滅危惧種に指定されている。北海道・九州・四国においてはその生息が確認されていない。
生息・生育状況	本県では、旧吉和村内において、滝から水しぶきが飛散して来るような環境の林床で、比較的新鮮な死殻が 1 個体見つかっただけであり、今後の調査によって、死殻が見つかった地点のみならず、その地点によく似た環境の地点を調査することによって、全県的な生息状況を把握する必要がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	湿度が多く自然度の高い広葉樹林に生息しているため、森林伐採や林道・ダム建設等によって、生息地が改変されると、絶滅の危険性が大きい。自然環境の改変が必要ときには、十分な配慮が必要である。
特記事項	中国地方の各県においてもその生息確認地点はわずかであり、鳥取県で 3 地点 (2 地点は生貝)、島根県で 2 地点 (死殻)、山口県で 3 地点 (すべて死殻)、岡山県で 2 地点 (1 地点は生貝) という状況である。
産地情報	廿日市市 (吉和)

矢野重文 (投稿予定). 中国地方で見つかったスジキビの報告とその全国的な分布について. まいご, 28.

平瀬與一郎 1909. 日本陸産貝類圖説 (十四). 介類雑誌, 2(8): 257.

(矢野重文)

ハクサンベッコウ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Nipponochlamys hakusanus (Pilsbry & Hirase in Hirase, 1907)

柄眼目 シタラ科

環 境 省: DD

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概 要	殻高 3.3 mm, 殻径 5.0 mm, 巻き数は 5 層, 螺塔は低いドーム状に盛り上がる平巻き形であり, 成長にともなって徐々に巻き広がっている。殻は茶褐色で, 殻表には光沢を有するが, とくに底面の光沢は強い。また, 体層部には微細な成長脈, 底面には微細な螺状脈が認められる。近似種のキヌツヤベッコウは, やや小型で, 螺塔が低く平坦で, 成長してもそれほど巻き広がらず, 殻表の光沢がやや鈍いことによって区別される。
生息・生育状況	本種は本州・四国に広く分布しているが, 本県ではまだ 2 か所 (山県郡北広島町・廿日市市) で死殻が確認されただけであり, 今後の調査によって正確な分布範囲を解明することが求められる。
存在を脅かす要因・ 保身の留意点	森林伐採や林道・ダムの建設等によって, 生息地が改変されると, 絶滅の危険性が大きい。自然環境の改変が必要なときには, 十分な配慮が必要である。
特記事項	近年ハクサンベッコウには, 何種かが混同されてるという見方があり, 遺伝子解析による検討が望まれる。
産地情報	廿日市市 (吉和), 北広島町 (芸北)

矢野重文 2019. ハクサンベッコウ. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物, p.507. 山口県.

平瀬與一郎 1908. 日本陸産貝類圖説 (七). 介類雑誌, 1(12): 305.

(矢野重文)